

# 事務事業チェックシート

事務事業No 222 事業名 障害者相談支援事業（地域自立支援協議会の運営、ピアカウンセリング、介護相談及び情報提供）

[事業基本情報]

分野別目標	2	個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまち
政策	2	高齢者・障害者支援の充実
施策	2	障害のある人の自立と社会参加の推進
基本方針	2	経済的自立への支援

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計	一般会計	
	款	民生費	
	項	社会福祉費	
	目	障害者総合支援費	
	大事業	障害者総合支援事業	
事項	地域生活支援事業		

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間	平成20年度～	
事業実施の根拠法令	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第77条第3項	
関連個別計画	和歌山市障害者計画・和歌山市障害福祉計画	
担当課・担当課長 (Tel)	障害者支援課	坂下 雅朗 (435-1060)
関連課	保健所 保健対策課	

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束	障がい者福祉の推進			

## 1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	障害児者の方々の抱える生活、就労等に関する課題について相談を受け、課題解決を図る。	障害児者やその家族に対し、市内6か所の委託相談支援事業所において、障害児者の方々にかかる生活や仕事等にかかる困っていることや不安について相談を受け、その中で明らかになった課題の解決に向け、関係機関との連絡調整を含めて必要な支援を行う。 例えば、必要なサービスの紹介やサービスの事業所の調整、通所サービスであれば同行見学等を行う。 また、和歌山市自立支援協議会も6か所の委託相談支援事業所と行政で協力して運営している。				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		障害者相談支援事業委託先 6箇所	障害者相談支援事業委託先 6箇所	障害者相談支援事業委託先 6箇所	障害者相談支援事業委託先 6箇所	障害者相談支援事業委託先 6箇所

## 2 事業コスト

		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費等 千円	事業費	39,000	39,000	39,000	39,000	39,000		39,000		39,000	
	伸び率 (%)	-	-	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	
	人件費	常勤職員	2,491	2,302	2,302	2,487	2,484		2,484		2,484
		非常勤職員	0	0	0	0	0		0		0
		小計	2,491	2,302	2,302	2,487	2,484		2,484		2,484
	国庫支出金	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500		1,500		1,500	
	県支出金	750	750	750	750	750		750		750	
	市債										
	その他										
	一般財源（税等）	36,750	36,750	36,750	36,750	36,750		36,750		36,750	
所要人数	常勤職員	0.34	0.31	0.31	0.33	0.31		0.31		0.31	
	非常勤職員	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0		0	
主な予算内訳		相談支援事業委託料 36,000千円（6か所）、相談支援機能強化事業委託料 3,000千円（1か所）									

## 3 目標及び実績

		指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	委託箇所数					年度目標値	6	6	6	6
						実績値	6	6		
	単位	か所	全体目標値	6	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	100.0%	100.0%	
							年度目標値			
成果指標	相談件数					年度目標値	840	1,200	1,200	1,200
						実績値	1,228	1,743		
	単位	件	全体目標値	840	全体目標達成度	146.2%	年度別達成度	146.2%	145.3%	
							年度目標値			
単位		全体目標値		全体目標達成度		年度別達成度				
						実績値				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>事業内容については、相談実績については毎月事業報告を受け確認しているが、障害児者のいろいろな相談に細やかに対応してくれており、効果があがっているため現状維持と考える。</p> <p>経費については、対応件数が増加していることから、増額することはあっても、削減することは考えられない。現状維持が最低必要である。</p> <p>相談は無料としている。相談がしにくくなるので、有料とすることは検討できない。</p>
「見直し」 「改善」案	<p>行政と各委託相談支援事業者が中心となって和歌山市自立支援協議会を構成し、運営を行っている。この協議会の中で、行政と各委託相談支援事業者で毎月運営会議を開催しており、その中でケース検討を1件ずつ行っている。これにより、各事業所の支援についてお互い意見を交換することで、資質の向上や情報交換、各事業所の連携の強化を図っている。</p>